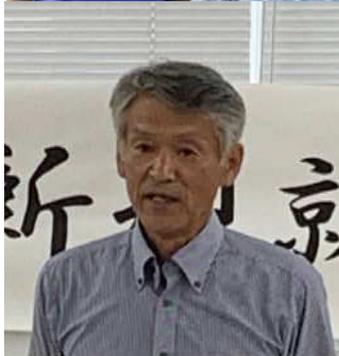




これから農業を志す皆さんへ
佐賀県農業士からの
メッセージ



これから農業を志す皆さんへ

佐賀県農業士からのメッセージ

佐賀県には農業を志す皆さんの“夢”を応援し、次世代の農業経営者を育てる農業士(130人)がいます。

今回、この中から農業士22人が、佐賀県農業士を代表して農業を目指す皆さんにメッセージを送ります。

佐賀県で、農業を志す皆さんに、この熱いメッセージが届くことを期待しています。

佐賀県農業士とは

各地域で新規就農者や青年・女性農業者等に対する育成・支援、男女共同参画の推進や地域活性化等に取り組む先進的農業者で、市町長から推薦され、知事が認定している方々です。

会長・副会長

No.1	原 康裕(会長)	みやき町	花き(カーネーション)
No.2	野口 とよ子(副会長)	佐賀市	米麦大豆
No.3	市丸 初美(副会長)	伊万里市	ブロイラー、花苗、直売所

佐城地区

No.4	岡本 邦啓	佐賀市	ほうれん草、水稻
No.5	中島 康浩	佐賀市	施設キュウリ、米麦大豆
No.6	七島 満好	小城市	米麦大豆
No.7	下村 啓子	小城市	米麦大豆、葡萄、露地野菜

三神地区

No.8	手島 健次郎	鳥栖市	米麦大豆、じゃがいも、玉ねぎ
No.9	中村 静佳	基山町	米麦大豆

東松浦地区

No.10	橋本 英樹	唐津市	ハウスみかん
No.11	石川 勇治	唐津市	施設トマト、水稻
No.12	大谷 典子	唐津市	水稻、露地野菜
No.13	中山 園子	玄海町	肥育牛、繁殖牛

西松浦地区

No.14	中山 一徳	伊万里市	梨、桃、施設キュウリ、露地野菜
No.15	山下 義則	有田町	繁殖牛、肥育牛

杵島地区

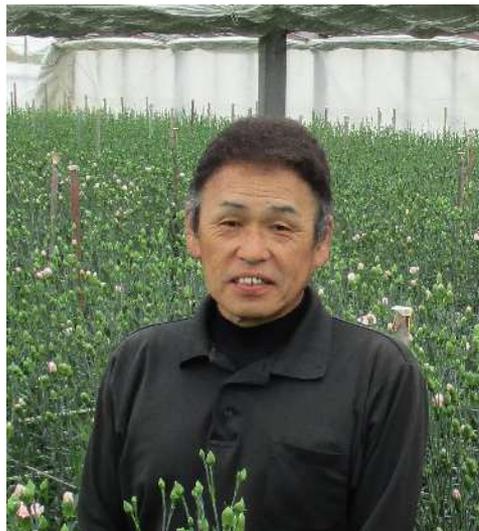
No.16	澤井 富二郎	武雄市	お茶
No.17	岩橋 久美	武雄市	施設いちご
No.18	橋本 好弘	白石町	肥育牛、米麦、レンコン、玉ねぎ
No.19	片渕 純孝	白石町	施設キュウリ、米麦大豆

藤津地区

No.20	岩永 敏之	鹿島市	施設トマト、夏秋ナス、米麦大豆
No.21	中島 構治	嬉野市	酪農、水稻、WCS
No.22	深町 哲也	嬉野市	施設キュウリ、米麦大豆

経営概況

- ・経営品目(経営面積)
 - カーネーション (1,100坪)
 - フリージア (100坪)
- ・営農年数:43年

**農業を志す方へのメッセージ**

これからの農業では、人工知能、インターネット、無人農業機械などの技術革新のスマート農業を取り入れ、自分で道を開く工夫が必要です。

その土地の人や気候や土壌から恵みを受た農産物と農村社会に感謝することや、「ともに」繋がっていく相互扶助「結い」の精神を持ち続ける覚悟が必要です。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

普通高校より大学入試に失敗、一年自宅浪人中、両親のもとで花栽培の手伝いをしている頃に、県の普及指導員の方から、東京都多摩市にある農林水産省の東京農業者大学校を紹介してもらい、3年間全国の農業後継者と全寮制生活をしました。2年生時に6ヶ月間、岐阜県大垣市の洋ラン農家研修をしたことで、「やるぞ!」という熱い決意が生まれました。

卒業後は様々な品目の花栽培に挑戦し続け、失敗と成功を繰り返してきました。そんな中「カーネーション」は特別で、母の匂いがするようで、現在も毎年作り続けています。

「大きな変化」は「大きなチャンス」と考え、親子3人+母の労働力の中、小農家の強みを生かし、大産地、輸入がやらない「隙間」での花栽培経営を貫いています。

私が応援できること

地元の中学2年生の進路学習「座学教室」の中で、「食糧と農業の大切さ」と題し「命の尊さから地産地消」話をした機会もあり、現在の世界情勢から食料自給率の向上など農業の話を伝えてたいと思います。

また、今後は幼児から大人まで含めた幅広い世代に農業体験ができるよう環境の支援づくりを協力していきます。

経営概況

- ・経営品目
米麦大豆(540a)
- ・営農年数：42年

**農業を志す方へのメッセージ**

これからの農業は私たちがやってきたことと違って、異常気象で作業が大変かもしれませんが、皆さんの知恵、努力で頑張ってください。

微力ながら私たちでお役に立てればお話を聞かせてください。

農業は身体が基本です。無理せずに行ってください。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

私の就農のきっかけは、結婚する相手が農業をしていたということです。短大を卒業して結婚して農業に専念しました。その頃は家族全員が農業をすることが当たり前のことだったのでなんの抵抗もありませんでした。その頃は夫がきゅうりハウスをしていましたので、覚えるのに必死でした。4年後義父が病気で倒れて私たち二人で農業をする事になり農繁期の忙しい時は夫が田んぼ、私がハウスと分かれて作業をしていました。

私が就農して30年頃、その間に祖母、義父が亡くなり義母の介護をしながら作業をしてハウスも2か所と増やしていきましたが、私が大病を患い、米麦大豆の経営になりました。

集落営農から法人になり7年前から(法人)本庄東部で作業を行っています。

私が応援できること

農業女子の方々へのアドバイス、こども園から小学校高校生短大生大人の方々まで地産地消を考えてもらうよう味噌作り、豆腐作りを行っています。農業に興味を持ってもらえれば嬉しいです。

経営概況（株）百姓屋

- ・営農地：伊万里市
- ・経営品目
ブローラー 70万羽
花苗 12a
直売所（百姓屋）
- ・営農年数：29年

**農業を志す方へのメッセージ**

これから、辛いことや大変なこともあると思いますが、それよりも、もっともっと沢山の楽しみや喜び、感動やわくわくがあります。常にアンテナを張って、色んな事に挑戦して欲しいと思います。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

平成6年に夫とともに就農。夫はブローラーで自分は花木と部門分けして始めました。その後花木を花苗へ転換。複式簿記に取り組むことで経営の健全化を図りながらブローラーの規模拡大を行っていきました。ブローラーではオリジナル加工品「山ん鶏」を商品化、商標登録を行いました。また、長女と長男夫婦、二女夫婦も就農し、後継者もできました。平成20年には直売所「百姓屋」をオープンし、平成24年には農産物を生産販売するうえで信用と販売力を高め、共に働く人たちへの福利厚生充実のため、農業生産法人「株式会社 百姓屋」を設立。現在代表取締役社長を務めています。

「百姓屋」はブローラー部門、花苗部門、直売所部門にそれぞれ役割分担を明確化し、家族が一致団結した会社の運営を行っています。役員の一部と社員、臨時雇用職員のほとんどが女性で産前産後休暇や育児休業制度など、安心して働き続けられる環境を整備しています。

私が応援できること

これまでの経験の中から、アドバイスや支援をできればと思っています。情報の共有をし、行政とのつなぎ役もしていきたい。

経営概況

- ・営農地:佐賀市
- ・経営品目
 水稻 398a ほうれん草 35a
- ・営農年数:45年

**農業を志す方へのメッセージ**

佐賀市では、ほうれん草トレーニングファームを開校しています。ほうれん草の栽培の研修で二年間の研修をし、基礎から技術を学んでもらっており、独立しても一人立ちができるように頑張ってもらっています。新規就農相談等も農業士会も一緒に行っています。儲かる農業を目指してほしいです。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

就農のきっかけは、父が病気であるということで大阪の会社を辞めて農業をはじめ、当時はハウス内で施設トマトを両親3名で7棟作付けをしてました。また、ほうれん草の栽培も3棟作付けして価格も高く販売をしていました。トマトは重量が重いので家族で辞めようということになりほうれん草に変えました。水稻も当時は200aを栽培していました。ほうれん草の栽培や小葱の栽培を行いながら、少しずつほうれん草の面積を増やして、現在は35aになっています。作付けも年間5~6作の作付けを行い水稻も398aで家族3名で行っています。

青色申告を行い経費がどれだけかかっているか常に把握しながら肥料代や農薬代ができるだけいらないようにしています。また、水稻はスマート農業によるドローン農薬散布を行い水管理システムの勉強をしながら労力がいらないようにしています。

私が応援できること

現在、佐城地区農業士の会長や佐賀市トレーニングファーム協議会の副会長をしています。研修生のアドバイスや新規就農者の相談やアドバイス等も行っています。また、移住で農業をされる方の空き家バンクなどの手伝いもしています。ほうれん草や水稻の栽培方法等、相談してください。

経営概況

- ・経営品目
施設キュウリ 32a、米麦大豆 13ha
- ・営農年数:43年

**農業を志す方へのメッセージ**

「成功・失敗も自分次第」

目標に向かって、計画と反省を繰り返し頑張ってください。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

専業農家の次男ですが、兄が会社員になったので、家業を継ぐことになりました。

高校卒業後、施設キュウリ農家で3か月間研修を受けた後、15aのパイプハウスを建て、秋春キュウリ栽培を始めました。

収穫期間を長くして、経営を安定されるため、鉄骨ハウスに建て替え、規模拡大もして、夏秋～冬春栽培をしています。

現在は、息子も就農していて、施設キュウリと米麦大豆の複合経営をしています。

私が応援できること

私の経験での農業経営と施設キュウリ栽培などのアドバイス。

経営概況

- ・経営品目
面積：30ha
米麦大豆・作業受託・穀物検査機関
- ・営農年数：42年

**農業を志す方へのメッセージ**

農業はこれからどんどん変化し今まで以上に大切な産業になると私は思います。いろいろな場面で地域や周りの人たちに貢献できることがやりがいに繋がると思います。明るい未来を応援します。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

私が農業を目指すきっかけは、家業が農業を営んでいたことでした。志望校を決める時に父から「農業高校に行け。」の一言で農業の道を目指しました。農業高校を卒業して父母と施設ナスと米麦大豆の栽培をしてきました。父は以前から人の世話をすることが多く、農業経営に対して前向きな考えの人です。父や私もいろいろな会に所属し全国の稲作経営農家と交流や研修を通して規模拡大に務めてきました。

42年前私が就農した当初、耕作面積は3.5ヘクタールほどでした。私という後継者がいるということ、平成4年に米麦の乾燥調製施設を建設して自分たち自身で無農薬や減農薬のお米を販売することに取り組み規模拡大が進んでいきました。

平成10年に父から農業経営を任せられ平成17年に農業生産法人を設立しました。その時には経営面積は約14ヘクタールで、18年経った現在は約30ヘクタールです。

現在役員2名男性社員3名女性パート1名で生産から販売、作業受託を行っています。今後は倉庫を増設し地域の農家と共存共栄していく農業法人にしたいと考えています。

私が応援できること

私がお手伝いできることは、みなさんに今までの経験をお伝えすることです。約30年以上無農薬や減農薬でお米を栽培し自己販売を続けているノウハウは、失敗が多いながら、ほかの農家さんと違うと自負しています。

現在では農協に全く販売せず米麦大豆は全量実需者と取引しています。弊社では作業受託や穀物検査をしています。ここまで栽培面積を大きくするのもいろいろな苦勞もありましたがその都度学ぶこともたくさんありました。佐賀の平野部で農業を営むことは九州の温暖な気候を生かして二毛作で米と麦を表裏で作付けできるメリットは大きいです。うちにも若い農業者が3人いますのでこれからの彼らの取り組みを見守ることが私の役割だと思っています。

経営概況

- ・経営品目
米麦大豆、葡萄、ブロッコリー（10ha）
- ・営農年数:40年

**農業を志す方へのメッセージ**

農業経営者は社長です。やり方次第で儲かる経営ができると思います。しかし自然相手のため自分の力だけではどうにもならないこともあります。やりがいのある仕事です。希望を持ってがんばって頂きたいです。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

昭和48年に減反政策が始まり、義父が水田ブドウ作りを集落で始めました。旧牛津町では60件あまりの農家が露地栽培を始めました。

わが家は夫が高校を卒業した頃にハウス栽培に変わり早期栽培から露地栽培までになりました。

その頃は巨峰だけでした。その後、ぶどう園を改植して根域制限に変え、巨峰に加えシャインマスカットやピオーネ、クイーンニーナなどを作るようになりました。



ブドウハウスの様子

お客様のニーズが、「種なしぶどう」が主流になったので、今は全部種なしで作っています。それまで果樹主体の経営を規模拡大で米麦大豆に変えました。平成11年からパソコンで複式簿記での申告ができるようになり、経営に役立っています。2年前に長男が就農したので、これからは規模拡大と雇用重点をおきたいです。

私が応援できること

若い女性農業者の話の聞いたり、アドバイスができればと思い取り組んでいます。また、小さい子供たちに地産地消のみそ作り体験で大豆からみそができることを教えたりしています。

経営概況

・経営品目（経営面積）

水稲19ha、麦16ha、大豆2.5ha

ジャガイモ7.5ha、たまねぎ0.9ha

その他葉物野菜0.7ha

・営農年数：45年

**農業を志す方へのメッセージ**

夢を持ち諦めずに一生懸命に努力する
人生は一度だけ

就農のきっかけから現在に至る農業経営

昭和53年 就農(肥育牛+アスパラガス+米麦の複合経営)

平成 7年 経営移譲

平成15年 肥育部門を止め、土地利用型経営へ経営転換

平成17年 バレイショ作付開始 生産グループと契約栽培開始

平成18年 飼料米生産開始

平成25年 たまねぎ生産開始

馬鈴薯(じゃがいも)を、(株)カルビー、酒米を天吹酒造、米粉用米を市内のお菓子屋、飼料用米を(株)ヨコオと契約するなど契約栽培により安定的な経営確立を目指している。

また、露地野菜は徹底した排水対策を実施して、バレイショ、タマネギ、キャベツ等品目を導入し、作期分散を図っている。

私が応援できること

農業は自然との闘いです。仲間を増やし、知恵を絞る。体を動かす。

一人で農作業しても面白くない。

たくさんの相談の相手を見つけることが成長につながる。

技術は教えてもらうでも 見つけ掴むもの。

そのような長年農業体験で得たことを伝えていく。

経営概況

- ・経営品目（経営面積）
米 4.6ha 麦 4.3ha
- ・営農年数：15年

**農業を志す方へのメッセージ**

地域の農業者の方達と交流を持ちながら、楽しみながら農業をやって欲しいと思います。

周りには農業のプロがたくさんいらっしゃいますので助けてもらってください。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

両親が兼業農家で50aの田んぼで米を作っていましたが、高齢になったので引き継ぎました。主人もサラリーマンで土日しか農業が出来ませんが、農業で得る収入で一年に最低一度は趣味の海外旅行に行こうと始めました。近所の高齢で農業の出来なくなった方達の田んぼを借りて米麦を作っています。

農繁期は平日前準備を私が行い、土日は主人と後輩達に手伝ってもらい収穫などを行っています。周りの農家の方達にもアドバイスを頂き、可愛がってもらい、田んぼを借りている方には感謝され、農業をやって本当に良かったと思っています。目的の海外旅行も毎年1回から2回は行っています。

少しの田んぼを親から継ぐのは大変だと思いますが、美味しいお米を食べられて、趣味を満喫できると思ってやってみて欲しいです。兼業農家でも目的を持ってやれば楽しみながら農業が出来る事を伝えたいです。

儲かる農業は無理ですが、楽しむ農業をこれからも続けていきます。

私が応援できること

楽しむ農業を伝えられる事と、私の周りの素晴らしい農家のスペシャリスト達と繋げる事は出来ると思います。機械に乗るのは得意なので女性の方でも乗ってみたいなら教えます。

経営概況

- ・経営品目
ハウスみかん123a
- ・営農年数：32年

**農業を志す方へのメッセージ**

農業を選択され、経営者としての道を進まれようとする姿勢に敬意を表します。農業は自営業という自己責任の中で仕事をします。すべてが思いどおりにいくとは限りませんが、高収益を得る可能性は「大」です。自己判断と対応次第で思いもよらぬ喜びの結果を得る事ができます。とって「おもしろい」ですよ。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

就農当初は露地みかん中心の経営。主要産地を視察した結果、気象や園地等の差を感じ、地域の特徴を活かすならばハウスみかんしかないと思い規模拡大を決意しました。

開始当初は自己資金で取組み、H7年から補助事業を有効活用してハウスみかんを増やして現在に至ります。

規模拡大に伴い、加温体系を見直すとともに、気象災害等の危険分散や労力分散を図り、栽培管理の行き届く経営に努めています。

施設機械や園地の整備に必要な投資は計画的に実施し、生産基盤の強化に努めて、また、常時1,000本の苗木を保有し、3~4年周期で生産性の低下した老木園を改植して高い生産性を維持しています。

経費の約8割を占める燃料費の節減対策として、循環扇、3重被覆やヒートポンプを導入し、3重被覆により約20%の重油量の削減を実現してます。

私が応援できること

新たな就農となると農業の「魅力」が大事だと思います。その中の経済的な「魅力」も大きな要因です。儲かる農業でかつ安定化するには地域内の対話の機会を増やすことが大切です。共同草刈りや農道舗装などによる懇親が「人が人をつくる(育てる)」原点です。

ハウスみかん部会では若い人たちの相談役になればと思っています。失敗の数なら結構ありますので。

ハウスみかんでは燃料や建設費の高騰で新規参加者がなくなり、高齢化、施設の老朽化そして生産出荷販売量の減少からの価格の不安定になりかねません。皆様の声を代表して各機関への要望、陳情はしていきたい。「いつまでもあると思うな補助事業(県の金)」。

経営概況

- ・経営品目
施設トマト60a、水稲9ha
- ・営農年数：44年

**農業を志す方へのメッセージ**

農業は自分自身が社長であり、従業員でもあります。ただ生産するだけではなく、販売先もJA系統以外にも自ら開拓しなければなりません。農業を志す方にはまずは土台となる技術をしっかり身に付けるとともに、将来の目標を描いて取り組んでください。また、就農に当たっては地元積極的に溶け込み、信頼関係を築いてください。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

高校卒業後、親元就農しました。就農当初は、水稲2ha、施設トマト10aから始めました。平成7年度にさが農業逸品づくり推進事業を契機に新たにハウレンソウ栽培40aに取り組むとともに、施設トマトを20aに規模拡大しました。平成15年頃からは水稲の特別栽培農産物認証制度に取り組み、作付面積を拡大しつつ、販売も自ら行うようになり、現在に至ります。

水稲やトマトは、有機肥料を積極的に活用し、細やかな施肥管理を行い、消費者の皆様には味がよいと評価され、市内複数の直売所や地域の福祉施設とも取引しています。

また、新しい栽培技術の導入にも積極的に取り組んでおり、施設トマトでは、自動かん水システムを整備することでかん水作業の省力化につながりました。水稲では、直進アシスト機能が付いたトラクター・田植機、さらに農薬散布用ドローンを導入することでより効率的に時間を使えるようになり、地域の担い手としてほ場を継承しながら水稲作付面積を拡大しています。

私が応援できること

日頃から青年農業者の相談に乗り、農業技術だけでなく悩みなども真摯に聴いて一緒に考えています。

また、東松浦農業振興センターと連携・協力しながら、新規就農者激励会や農業青年クラブの総会、冬のつどいなどにも積極的に参加し、助言・支援を行っています。地区農業士会の活動に際しては青年農業士にも参加を呼びかけ、ともに資質向上を図るよう努めています。

経営概況

- ・経営品目
 水稻60a、露地野菜60a
- ・営農年数：45年

**農業を志す方へのメッセージ**

高齢化の進行や担い手不足、農業資材費の高騰など農業を取り巻く様々な課題はありますが、農業は生きる糧です。お米にかかわらず野菜、果樹など農畜産物を作る人がいなければ、私たちは生きていくことができません。

これから農業を志す皆様には地域を巻き込んで、家族や周囲の協力を得ながら、若い人同士手を携えて農業の未来に向けて一緒に頑張りましょう。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

兼業農家であった夫との結婚を機に就農しました。就農当初は父が主体で水稻1ha、露地野菜150a、露地みかんを栽培しており、私と夫は農作業全般を担当していました。

平成20年頃に父から経営を受け継ぎ、夫は当時公務員であったため私が主体となり農業経営を行いました。その際、労働力が夫婦のみとなったため、徐々に経営規模を縮小し、現在に至っています。

お米の品質や収量向上、低コスト化に努め、現在の経営規模を維持しながら、農地を次世代につないでいくことを目標にしています。

また、JAからつ女性部長在職時に食育教育にも携わるようになり、その後、前任の農業士から引継ぎ、ふるさと先生として活動を続けています。自分が作ったものを活かしたいという思いから地元産の農産物を利用し、郷土料理の伝承活動にも取り組んでいます。

私が応援できること

東松浦農業振興センターと連携・協力しながら、新規就農者激励会や農業青年クラブの総会、冬のつどいなどにも積極的に参加し、助言・支援を行っています。地区農業士会の活動に際しては青年農業士にも参加を呼びかけ、ともに資質向上を図るよう努めています。特に女性農業者に対しては女性の立場、視点から積極的な助言・支援を行っています。

また、ふるさと先生として地域の子供たちへの食育活動や郷土料理の伝承活動を通じて地域農業・農村の活性化にも努めています。

経営概況

- ・経営品目
肥育牛1,800頭、繁殖牛460頭
- ・営農年数 31年

**農業を志す方へのメッセージ**

畜産業は収入も大きいですが、支出も大きいです。新しく始めるには設備投資費や素牛導入費など多くの費用を必要とします。国や県、市町の支援事業や地域内で利用されなくなった牛舎や施設を有効活用するなど初期投資を抑える方法を慎重に検討してください。応援しています！

就農のきっかけから現在に至る農業経営

私の実家や親戚は非農家であったため、結婚を機に就農しました。

就農当初は黒毛和種500頭、乳用種50頭、F₁50頭を2か所の牛舎で家族、親戚に加え従業員4~5名で管理していました。

その後は、変動する畜産情勢に合わせ飼養頭数や経営形態を変えながら現在の経営に至りました。

規模拡大を行う上では牛舎や機械などの施設整備費や牛の導入費などの資金や飼養管理を行う人材の確保が必要でした。

資金についてはJAからの融資や「畜産クラスター事業」などの事業を積極的に活用することで設備投資を行いました。

労働力については、飼養管理の改善について自らが考え行動できる人材を会社として育成することで安心して牛舎を任せることができています。

今後も、現在の飼養規模で維持していくためにも、飼養管理・経営改善を継続的に行っていきたいと思います。

私が応援できること

新規就農者の確保や育成を図るため、地元の唐津南高等学校生徒の農業見学会や農業大学校学生の先進農家派遣研修を積極的に受け入れ、農業の魅力を伝えていきます。

今は、飼料代高騰などで畜産情勢は非常に厳しく畜産業を辞められる農家さんも多いと聞いています。そのような中で、畜産経営を志す方たちの何か助けになればと考え、今後も活動していきます。

経営概況

- ・経営品目
梨100a、ハウスモモ18a、キュウリ5a
冬どり玉ねぎ7a、玉ねぎ15a
- ・営農年数：42年

**農業を志す方へのメッセージ**

農業は食糧生産を担うだけでなく、地域を担う大切な仕事。お天道様はみんなに平等に与えられています。それを如何に利用していくか、初心を忘れずに基本は観察すること、記録することが大事です。仲間を作って、失敗してもチャレンジ精神で前に進んでほしいと思います。恥をかくことも財産になります。また、近年は温暖化等環境変化に伴い栽培技術も対応が必要になっているので、情報のアンテナを張って取り組んでほしいです。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

地元の伊万里農林高校を卒業し、大学に進学。東京で一旦就職しましたが、妻と結婚と同時に就農し、梨（露地）30aと水稻150aの経営を引き継ぎました。

当時は兼業農家でしたが、専業農家として成り立たせるために、①新しい栽培技術（梨早期出荷）、②複合経営に挑戦しました。

①梨の早期栽培出荷では、ハウス栽培、加温栽培を開始し、JAなし部会で東京を中心に高単価で全国に出荷することで、伊万里梨ブランドとして知名度アップにつながりました。

②経営を安定化させるため、梨と複合品目を検討し、米ナス、キュウリ、冬どり玉ねぎ、玉ねぎなど新しい作物に挑戦し、収量向上、規模を拡大した。特に、冬どり玉ねぎは、11～1月出荷で冬場の収入確保を実現しています。

現在、経営を長男夫婦に移譲し梨のジョイント栽培や、次男もキュウリ栽培を新たに開始し、規模拡大しています。

私が応援できること

来てもらって、見てもらって一緒にすることは出来るので、応援するし、息子たちも新しい農業をやっているの、一緒にサポートします。

「為せば成る為さねば成らぬ何事も」

失敗をしても、どんなことでも強い意志をもってやれば必ず成功するという気持ちで頑張ってもらいたい。

経営概況

- ・経営品目
繁殖牛38頭、肥育牛50頭、
米45a、飼料作物300a
- ・営農年数：46年

**農業を志す方へのメッセージ**

農業は命を預かる職業ですので、命を大切に思う気持ちを持って就農してほしいと思います。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

父が10頭の牛を飼ったところから畜産の始まりであり、北海道で繁殖牛の実習を経て昭和52年に就農しました。昭和56年に国の事業で牛舎を建設し繁殖牛を増頭。平成5年に肥育牛の牛舎を建設後、一貫経営を開始しました。

飼養牛へ給与する粗飼料を、飼料作物の作付拡大や稲わらの収集など、地元で100%完全自給することで、低コスト生産及び肉質向上に努めています。また、徹底した飼養管理を行い、事故率0を目指しています。

水稻+和牛繁殖・肥育の完全一貫経営による安定した複合経営を行っています。後継者も就農しており、今後の経営継承に向けて検討していく予定です。

私が応援できること

畜産のこと、集落営農のこと、地域のこと、何でも相談にのりますので、相談ごとがあれば、いつでも来てください。

経営概況

- ・経営品目
茶(4.2ha)
- ・営農年数：43年

**農業を志す方へのメッセージ**

計画をもって未来をみる。

いろんな交流で視野を広げ、地域に溶け込んでリーダーになってほしい。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

小さい頃からお茶づくりを見て育ち、高校を卒業と同時に京都府立茶業研究所で2年間勉強してきました。

昭和54年の就農した際には儲かる経営のため①お茶の優良品種「やぶきた」の導入②パイロット事業で2.2ha規模拡大。③製茶工場の機械をリニューアルをするなど整備をしてきました。近年は、ゆとりある経営のため、平成12年には乗用摘採防除機を導入しました。また、全面積「やぶきた」としていましたが、平成15年より、樹が古くなった茶園の改植を始め、現在では半分を違う品種としたことで作業分散ができ、良質な茶づくりができています。

お茶の販売をとおして、いろんな人と交流が増え現在に至っています。これからも元気で、楽しく頑張っていきたいと思います。

私が応援できること

就農すると青年団と消防団に入り、夏祭りや災害支援などで出動してきました。活動していると、地域の交流があり、おばあちゃんから子供たちと顔見知りになりました。地域のまとまりを感じ楽しい思い出が出来ました。みなさんも積極的に地域活動へ参加してください。

経営概況

- ・経営品目
米麦大豆65a、イチゴ15a、
イチジク13a、露地野菜
- ・営農年数：40年

**農業を志す方へのメッセージ**

自然相手の農業は良いときも悪いときもありますが、農業を生業として良かったと思える日があると思います。昨今の異常気象、世界情勢の不安定、国内食料自給率の向上の必然性など、大きく先を見据えて、自分なりの農業を確立してください。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

40年前実家の都合で、就職していた関東からUターンしました。実家は50a程の田と50a程の畑を持つ兼業農家でした。実家の農地を守るため、義父の農業者年金受給の関係で国家公務員からUターン農業をしていた夫と、見合い結婚をしました。

当時は圃場整備直後で、何を作っても上手くいかない土壌でした。メロン栽培をしていた夫は、その後イチゴに切り替え、品種も「とよのか」から「さがほのか」、「いちごさん」へと変わりました。若いころは規模拡大もしましたが、自分たちの手が回る範囲で、作物を大切に育てようと決め、子育てが終わった頃、「規格外のイチゴに付加価値付けられたら」と加工許可をとり、加工所を作って、ジャム加工に取り組み、夫はイチジクの栽培も始め、ジャムの種類も増えました。

私たちの経営は米麦で農地を増やすことなく、イチゴを主幹作物とし、収入のない夏場を、加工とイチジクの販売で乗り切っています。毎月収入のある経営を理想としています。

私が応援できること

親から子への農業の承継が難しい今、国は地域計画で、5年先、10年先の農業の維持発展を目指しています。農地取得の下限面積も廃止されました。誰もが農地を取得でき、農業に参入することが可能になったのです。

農業人口を増やすために、若者に効果的なSNSで農業の魅力や農業に関する施策支援などを発信することも大事だと思います。

佐賀県では、就農を希望する方に対して、トレーニングファームで手厚く指導を受けることができ、女性の経営者も増えています。非農家でも農業に興味のある若者や女性の農業参入に対して、農業委員をしている立場として、農地の斡旋や相談など、出来る限りの協力を出来れば、と思っています。

経営概況

- ・経営品目（経営面積）
肥育牛170頭、米麦 7ha
レンコン60a、タマネギ 60a
- ・営農年数：43年

**農業を志す方へのメッセージ**

自分の時間が持てて、稼げる農業を目指しましょう。
基礎作業を習慣づけることと、小さな積み重ねが成果を生みます。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

私の父母は米、玉葱を栽培し、小さいころから農作業を手伝っていました。高校、経理学校を卒業し3年間サラリーマンを経験しましたが、自分の努力次第で稼げる農業に魅力を感じ、肥育牛を始めました。

滋賀県や北海道の農場で研修を受け、技術や経営計画の立て方を習い、地元に戻って関係機関や仲間に助けをもらい、資金を借りて牛舎を建て、子牛を導入しました。最初はホルスタインから、その後F1を導入し、現在は和牛を飼育しています。

米麦、タマネギ、レンコンの露地作物は、労力を軽減するため機械や牛舎を整備するとともに、WCSや麦作を中心とした作付体系へと転換してきました。

現在は法人化して、雇用の受け入れや後継者への引継ぎがうまくいくよう取り組んでいます。

私が応援できること

4Hクラブ、青年農業士や部会活動を通して多くの仲間ができて、助け合ってきました。営農するためには地域のまとまりが重要です。私にできることは協力をしていきます。

農業情勢の変化に対応した情報収集や助言をしたいと考えています。

現状は後継者不足で危機的な状況にあるので、意欲ある後継者には相談のりたいたいと思います。

経営概況

- ・経営品目
米3.5ha、麦6.5ha、大豆3.5ha、
キュウリ19a
- ・営農年数:45年

**農業を志す方へのメッセージ**

新規就農者が少ない中、今後益々食の大切さが見直される時代となっていくでしょう。

大変な時もあるかと思いますが、頑張れば成果が出る仕事なので、前に進んでいてもらいたいです。応援しています。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

長男だったので、高校の頃から就農を決めていました。

農大卒業後、20歳で就農し、海苔養殖と米麦大豆を経営。30歳で繁殖牛も始めましたが、海苔養殖は収入が不安定で経営的に厳しかったため38歳の時に海苔養殖と繁殖牛を辞め施設キュウリに切り替えました。

そのころから、田んぼを委託されることが増え、地域の担い手として父とともにシャカリキに働いてきました。

施設キュウリに関しては、栽培技術がゼロからのスタートだったのでとても苦勞をしました。そういう時に助けてくれたのが、同じ品目を栽培されている先輩方でした。来る日も来る日もそういった先輩方にアドバイスをいただいたり、圃場を見せていただくうちに、自分がイメージするキュウリの姿が出来るようになり、苦勞が実ったと感じた時はとても嬉しかったです。

これからは、若手の担い手を手助けしつつ、更に自身の経営をステップアップさせていきたいと思っています。

私が応援できること

今後益々、食が大切になってくると思うので、子供達への食農教育に力を入れたいです。

16年前から大豆栽培～大豆の調理指導に出向いていますが、子供たちが喜ぶ姿には、こちらも元気をもらっています。

子供たちが農業や食べ物に関心を持つことで、その親も興味を持つようになることも多々あり、この積み重ねが地域農業を守ることに繋がると信じています。

また、これまで自分を助けてくれた先輩方のように、若手の助けが出来ればと思うので、少しでも困ったり、息詰まることがあればいつでも相談してほしいです。

部会や地域の会合などにも積極的に参加し、気楽に話せる立場であらうと思っています。

経営概況

- ・経営品目 トマト70a、ミニトマト25a、
夏秋ナス18a 米2ha、麦6ha、
大豆3ha
- ・営農年数:36年

**農業を志す方へのメッセージ**

やる気をもって農業に参入する人を大歓迎しています。農業は体力的・精神的にきつい事も正直あります。しかし、自分のこだわりをもって育てた野菜のおいしさは格別です。

おいしい野菜で稼ぐ農業を実現しよう!!

就農のきっかけから現在に至る農業経営

経営理念として、①地域農業の発展に貢献する、②安心・安全な農産物を提供する、③地域の子どもたちへの食育活動を通して、農業に対する興味関心を育む 以上3点を掲げています。

現在は農業士として研修生の受入れや、トレーニングファームの農家講師として就農希望者への栽培技術習得支援や、就農・定着・自立までの継続的な支援を行っています。

新たに整備した高軒高耐候性ハウスを活用してハイワイヤー栽培に取り組み、収量アップに向けて情報収集に努め改善できる技術は積極的に取り入れるようにしています。

私が応援できること

就農に向けてトマトでの研修ができる“トレーニングファーム”で講師として関係機関と共にトマトの技術支援や経営アドバイスをしています。

私の今までの経験を伝えられるよう農業士として活動していきます。



トマトトレファの講師陣

経営概況

- ・経営品目
 - 酪農(搾乳牛45頭 育成牛33頭)
 - 水田15ha(稲WCS15ha
麦WCS10ha)
 - チーズ加工販売 カフェ2店舗経営
- ・営農年数 44年

**農業を志す方へのメッセージ**

農業士活動の中で新規就農者を応援しています。農業をやるからには成功して儲けてほしい。データをもとにした戦略的な経営ができるよう、努力していく必要があります。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

父の酪農経営を継承しようと、就農前に北海道で2年間、カナダで1年間研修しました。酪農に関する各種組織に所属して研鑽しながら、地域交流牧場として酪農教育ファームにも取り組んでいます。酪農部門では分娩間隔の短縮、乳質及び乳量の向上を図るため飼養環境の改善や自給飼料の活用に取り組んでいます。

酪農と米麦大豆の複合経営を行う中で、家族との役割分担の明確化が必要と考え、酪農部門を法人化(H12)しました。

6次産業化に取り組み、しぼりたてのミルクを原料にチーズ製造販売を行っています。また、福岡の専門店と開発したミルク出しコーヒーを提供するカフェ2店舗を営業しています。

私が応援できること

新規就農者への応援活動は、農業士会でも議論しながら実施しています。農業の現場を理解して就農してもらえたらと食と命の教育に取り組んでいます。



加工品のチーズ等

経営概況

- ・経営品目 きゅうり40a、米3ha、
麦3.5ha、大豆1.5ha
- ・営農年数 29年

**農業を志す方へのメッセージ**

農地や資金面で就農の準備ができたなら、農業技術をしっかり身につけ儲かる農業を実践してほしいと思っています。地元で農業の仲間をつくり地域活動にも参加してほしい。そのために私が応援できる事は、新しい農業者と地域をつなぐ事と考えています。

就農のきっかけから現在に至る農業経営

施設きゅうりと米麦大豆の複合経営を行っています。環境制御技術を実践することで、安定して高収量確保ができるよう努力しています。県の特別栽培農産物表示制度に登録し、環境に配慮した安心・安全なきゅうり生産に努めています。

また、集落の営農組織のオペレーターとして、米麦大豆を主体とした土地利用型農業に取り組んでいます。

嬉野市の新規就農者の組織活動「新農会」を支援する「農師会」に所属し、農業の技術について質問に答えたり意見を聴くなど若手農家をサポートする活動を行っています。

私が応援できること

就農希望者に対して研修を受け入れていますので、私の今までの経験を伝える事で栽培技術及び経営管理能力の習得をサポートする事ができると考えています。新規就農者が大きく育つ環境整備に向けて、これからも農業士として活動していきます！